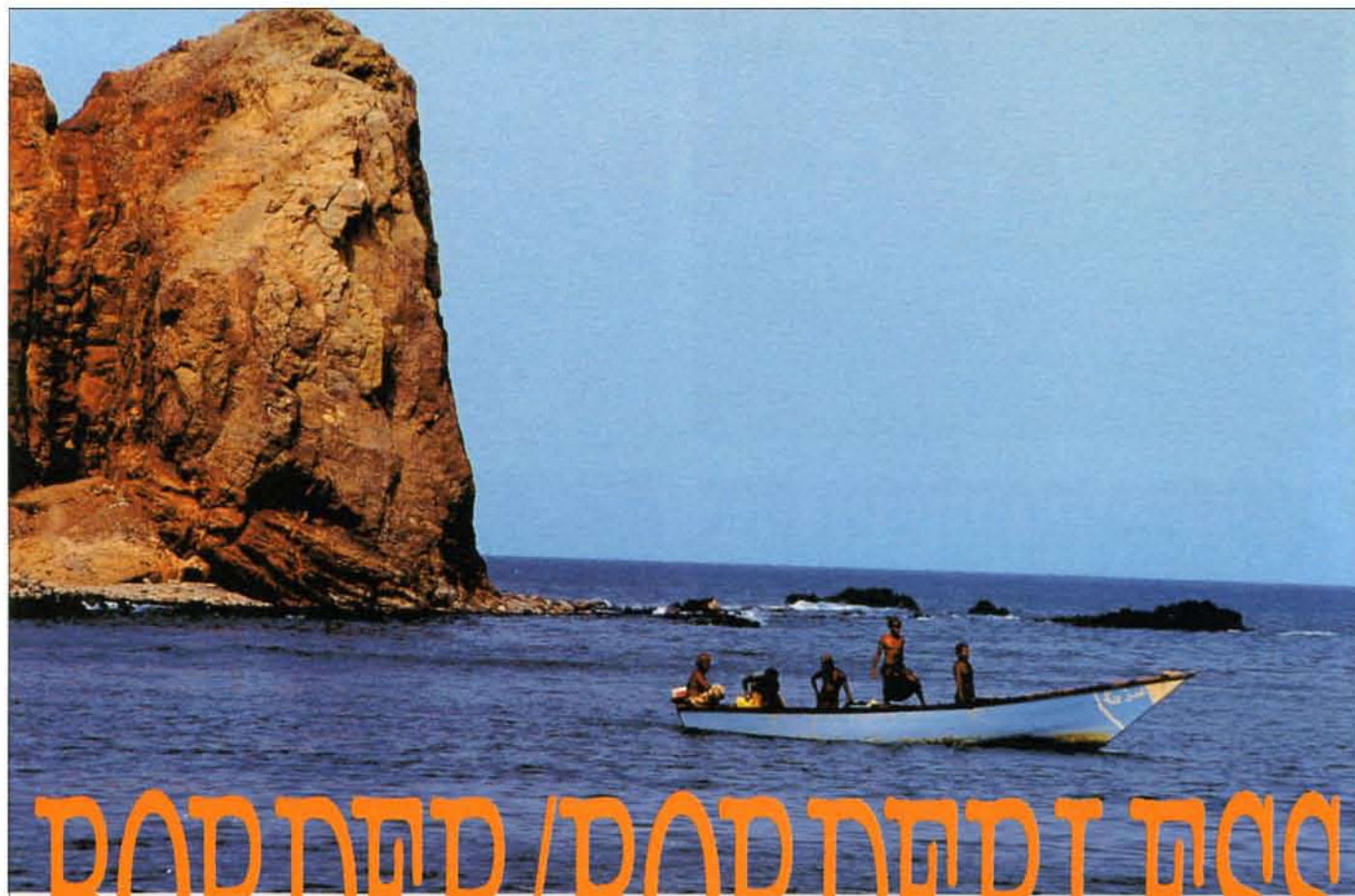




BORDER/BORDERLESS

JAPANESE CONTEMPORARY PHOTOGRAPHY

はるかな空の下で

日本の現代写真

'93.9.17—11.9 東京都写真美術館

主催—東京都写真美術館 TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで) 休館日—第2・4水曜日
入館料—一般・大学生500(400)円/小・中・高校生250(200)円 (内は10名以上の団体料金
千150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 Tel.03-3280-0031 展覧会のご案内▶ 03-3280-0099(テレホンサービス)

From the series, *Rhason of Harur*, No.12, 1992 ©Hiroshi Oshima



Folkplate, 1987 ©Seiichi Furuya



beograd university, beograd, 1992 ©Chihro Minato

BORDER/BORDERLESS

JAPANESE CONTEMPORARY PHOTOGRAPHY



11 P.M. SEPTEMBER, 1979, from the series *Harry's Bar* ©Masao Gozu

大島 洋
OSHIMA Hiroshi

郷津雅夫
GOZU Masao

白岡 順
SHIRAOKA Jun

杉本博司
SUGIMOTO Hiroshi

古屋誠一
FURUYA Seiichi

港 千尋
MINATO Chihro



White Mantled Cebus, 1980 ©Hiroshi Sugimoto



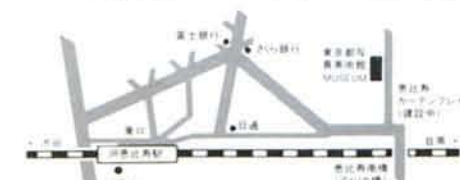
Montmartre, Paris, France, 1981 ©Jun Shiraoka

現代はポスト冷戦の時代といわれています。ベルリンの壁が取り壊され、ソビエト連邦は解体し、東西対立の構造は崩れました。勝利したかに見える資本主義社会においても経済は疲弊に喘ぎ、人種・民族間、南北対立など様々な問題に直面しています。問題が局地化し世界が分断・多極化される一方で、環境破壊や人口問題、核、エイズなど、私たちはかつて体験したことのない共通した場所に立たされています。また通信衛星により、一瞬のうちに世界中が同じ情報を共有でき、半日もかからず地球の反対側まで気軽に足を運ぶことができます。世界は拡散するのと同時に縮小しているかに思われます。

「はるかな空の下で——日本の現代写真」展では、既存の価値観が足元から崩れ価値観が多様化する、そうした流動化する世界を見つめる6人の日本の現代作家に焦点を当てています。彼らは単に生活や活動の場、被写体を外に求めているのではなく、今、現在、外に在ることを考えています。ある者はたゆまず移動しつづけ、あるいは一点に留まり、ある者は外にあって外に同化せず、あるいはその世界に身を任せ、混沌とした今を見つめています。自己のアイデンティティや異文化の問題、「境界」への意識……、単純さと訣別したかに見える彼らの作品には、東西の壁が崩壊した後の世界が共有している問題がくっきりと浮き彫りにされています。

【講演会のお知らせ】
テーマ—「写真と国境」
日時—10月8日(金) 午後3時～5時
会場—東京都庁・都民ホール
(都議会講事堂1階)
東京都新宿区西新宿2-8-1
講師—今福龍太(文化人類学者)
大島 洋(写真家)
港 千尋(写真家)

【フロアレクチャーのお知らせ】
第1回 9月18日(土)
第2回 10月2日(土)
第3回 10月16日(土)
第4回 11月6日(土)
※それぞれ午後2時から
【次回展覧会予告】
「林忠彦の世界」
会期=11月19日(金)—1月18日(火)



恵比寿駅東口改札より徒歩8分。お車でのご来場はご遠慮下さい。
■東京都写真美術館は、平成5年度に総合施設が現在の約7倍の規模で、開館します。